

新 た な る 展 望 の も と に

学長 金 子 曾 政

当節は新幹線の計画があると、駅の争奪戦が始まるのが常識のようであるが、明治の時代、鉄道がつきはじめたころには、田舎の町では、汽車などというものは、いい物をみんな持って行って、わるい人をどんどん運んでくると、駅を敬遠する傾向があった。結局、不便には勝てず、電車をつけたり、軽便を走らせたりするのであるが、いつの世も、進歩の方向と速度の選択は、まことにむずかしいものではある。

いまはコンピュータの時代といわれる。もう15年も前から、わが国でも“コンピュータピア”なる雑誌が出ている。コンピュータとユートピアからこの語を合成したのはロッキード航空機会社の副社長、D. E. ブラウン氏であると、昭和39年の南沢宣郎著「電子計算機」には書いてある。

日本においてコンピュータの研究が開始されたのは阪大での1947年、最初のコンピュータ、F U J I Cの完成は1956年3月とのことである。それから20年あまり、いま、われわれは、乗物の座席の予約、入試関係の集計、俸給自働振込などの身近なところから、スペース・シャトルの打ち上げに、世界を結ぶ情報に、各種予報に、科学研究に、設計に、産業ロボットに、あらゆる分野の計算に、好むと好まざるとに拘らず、まさにコンピュータの時代に生きている。

コンピュータは、いわば電子奴隷で、忠実な無機物のサーバントであると南沢氏は言っていたが、人間の指令通りにしか動かない。そして、人間は、もともと誤ちを犯しやすい動物なのである。最近、故意か、偶然か、いろいろな事故や事件も起きてきている。人間の神経の10万倍もの速さになった現在、やはり、相手を奴隷や召し使いなどとは思わずに、頑固で、誠実で、融通はきかないが、すばらしい性能を備えた親友として、細かい心配りと深い愛情を以て接することが必要なのではあるまいか。

人間が、英智を以て、資源の偏在する狭い地球に広く住みなし、ユートピアを築くためには、さらに新たな展望を以てコンピュータを自在に活用し、無限の未来を開拓しなければならないのではなかろうか。